



平成23年3月期 第3四半期決算短信〔米国会計基準〕(連結)

平成23年2月3日

上場取引所 東

上場会社名 コナミ株式会社

コード番号 9766 URL <http://www.konami.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 上月 景正

問合せ先責任者 (役職名) 代表取締役執行役員副社長

(氏名) 山口 憲明

TEL 03-5771-0222

四半期報告書提出予定日 平成23年2月10日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満四捨五入)

1. 平成23年3月期第3四半期の連結業績(平成22年4月1日～平成22年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高及び営業収入		営業利益		税引前四半期純利益		当社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
23年3月期第3四半期	188,308	△1.4	16,541	△3.4	15,224	△5.6	9,615	△9.5
22年3月期第3四半期	190,932	△18.4	17,126	△50.6	16,119	△49.2	10,620	△40.4

	1株当たり当社株主に帰属する四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり当社株主に帰属する四半期純利益
	円 銭	円 銭
23年3月期第3四半期	72.04	72.04
22年3月期第3四半期	79.58	79.58

(2) 連結財政状態

	総資産	資本合計(純資産)	株主資本	株主資本比率	1株当たり株主資本
	百万円	百万円	百万円	%	円 銭
23年3月期第3四半期	306,908	190,171	185,230	60.4	1,387.91
22年3月期	298,198	189,231	184,465	61.9	1,382.16

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
22年3月期	—	27.00	—	27.00	54.00
23年3月期	—	16.00	—	—	—
23年3月期(予想)	—	—	—	16.00	32.00

(注)当四半期における配当予想の修正有無 無

3. 平成23年3月期の連結業績予想(平成22年4月1日～平成23年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高及び営業収入		営業利益		税引前当期純利益		当社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当社株主に帰属する当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	285,000	8.7	24,500	31.3	22,500	31.4	13,500	1.4	100.70

(注)当四半期における業績予想の修正有無 無

4. その他（詳細は、添付資料7ページをご覧ください。）

(1) 当四半期中における重要な子会社の異動 無

（注）当四半期会計期間における連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動の有無となります。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用 無

（注）簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用の有無となります。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

① 会計基準等の改正に伴う変更 無

② ①以外の変更 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む） 23年3月期3Q 143,500,000株 22年3月期 143,500,000株

② 期末自己株式数 23年3月期3Q 10,040,161株 22年3月期 10,039,336株

③ 期中平均株式数（四半期累計） 23年3月期3Q 133,460,423株 22年3月期3Q 133,461,248株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

上記の予測には、本資料の発表日現在の将来に関する前提、見通し、計画に基づく予想が含まれております。世界経済、競合状況、為替の変動等にかかわるリスクや不確定要因により実際の業績が記載の予想数値と大幅に異なる可能性があります。なお、上記業績予想に関する事項は、添付資料6ページをご参照願います。

(添付資料)

【目次】

	頁
1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	4
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	6
2. その他の情報	7
(1) 重要な子会社の異動の概要	7
(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要	7
(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要	7
3. 連結財務諸表等	8
(1) 四半期連結貸借対照表	8
(2) 四半期連結損益計算書	10
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	11
(4) 継続企業の前提に関する注記	12
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	12
(6) セグメント情報	13

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

①当第3四半期連結累計期間の概況

当社グループを取り巻く経営環境は、景気が緩やかな回復基調にあるものの、依然として円高及びデフレの影響等による先行きの不透明感が続き、厳しい状況となりました。

娯楽市場（エンタテインメント）におきましては、国内外で開催されたゲーム・ショーにおいて、従来の操作方法とは異なる新たな遊び方を付加したゲーム機や3D映像技術を駆使したゲームが展示される等、新たな需要喚起に向けた取り組みが行われているほか、ソーシャルネットワーキングサービス（SNS）の成長により、ゲーム業界に新たなビジネスチャンスが広がってきております。また、景気停滞の影響が顕著であったラスベガス等の観光客市場に底打ち感が出てきておりますが、大手カジノオペレーターの多くは投資に対し慎重かつ選別的な姿勢を継続しており、今後の市場動向を一層注視してまいります。

健康市場におきましては、景気の先行き不透明感から個人消費の抑制傾向が継続し、スポーツクラブ業界では低価格化が進むとともに施設数が増加し、会員獲得における厳しい環境が続いております。

このような状況のもと、当社グループのデジタルエンタテインメント事業におきましては、代表作である「メタルギア」シリーズの最新作を発売したほか、「ウイニングイレブン」（欧米名「Pro Evolution Soccer」）シリーズをマルチプラットフォームで展開し、堅調な販売を記録しました。また、恋愛コミュニケーションゲームの新作「ラブプラス+」を発売し、前作同様、社会現象ともいえる好評を博しました。なお、「ドラゴンコレクション」をはじめとするSNS向けゲームについても好調に推移しており、今後の更なる成長に期待しております。

ゲーミング&システム事業におきましては、5リールメカニカルスロットマシン「Advantage5」シリーズやビデオスロットマシン「Podium」等の販売が米国市場を中心に順調に推移いたしました。

健康サービス事業におきましては、多様化するお客様のニーズに合わせ、当社グループの強みである運動指導・栄養指導・健康管理のIT化を活かしたプログラムの開発・導入を進める等、健康意識の高まるお客様へ向けたサービスの提供に努めました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は1,883億8百万円（前年同期比1.4%減）となり、営業利益は165億4千1百万円（前年同期比3.4%減）、税引前四半期純利益は152億2千4百万円（前年同期比5.6%減）、当社株主に帰属する四半期純利益は96億1千5百万円（前年同期比9.5%減）となりました。

②事業の種類別セグメントの業績

事業別売上高及び営業収入（セグメント間含む）要約版

	前第3四半期 連結累計期間 (自2009年4月1日 至2009年12月31日)	当第3四半期 連結累計期間 (自2010年4月1日 至2010年12月31日)	増減率
	金額(百万円)	金額(百万円)	(%)
デジタルエンタテインメント事業	100,427	97,943	△2.5
ゲーミング&システム事業	14,729	14,454	△1.9
健康サービス事業	64,584	65,104	0.8
その他の事業又は全社・消去	11,192	10,807	△3.4
連結合計	190,932	188,308	△1.4

(デジタルエンタテインメント事業)

ゲームソフトでは、全世界累計販売本数が6,880万本を超える「ウイニングイレブン」（欧米名「Pro Evolution Soccer」）シリーズの最新作として、「マスターリーグ」モードのオンライン対応や、南米最強のクラブチームを決定する「コパ・リベルタドーレス」の初搭載といった遊びの幅をさらに広げた「ワールドサッカー ウイニングイレブン 2011」（欧米名「Pro Evolution Soccer 2011」）や、PSP初の「メタルギア」シリーズの続編として、携帯型ゲーム機

の特性を活かした協力プレイ等が熱狂的なメタルギアファンからの熱い支持を集めた「METAL GEAR SOLID PEACE WALKER」を発売し、市場で高い評価を受けました。また、小島プロダクションが監修し、スペインのMercury Steam社とのコラボレーションにより新生となった「悪魔城ドラキュラ」シリーズの最新作「Castlevania ～Lords of Shadow～」は、欧米に続き日本でも出荷を開始しました。

さらに、サッカーファンが熱狂する4年に一度の祭典に合わせ、日本代表チームで世界の頂点を目指す「ジャパンチャレンジモード」を搭載した「ワールドサッカーウイニングイレブン 2010 蒼き侍の挑戦」をマルチプラットフォームで発売しました。そのほか、シリーズ初となるPS3版を発売した「実況パワフルプロ野球」シリーズの最新作「実況パワフルプロ野球2010」、コミュニケーションゲーム「とんがりボウシと魔法のお店」、海外で根強い人気を維持する音楽ゲームジャンルで、著名アーティストが所属するレコードレーベルとコラボレートしたラップカラオケゲーム「Def Jam Rapstar (デフ・ジャム・ラップスター)」や、米FOX系列の大ヒットミュージカルコメディドラマ「Glee (グリー)」を題材としたカラオケゲーム「Karaoke Revolution Glee (カラオケレボリューション・グリー)」等、多彩なラインナップを発売いたしました。なお、恋愛コミュニケーションゲームの新作「ラブプラス+」が前作以上の初週販売本数を記録する等、「ラブプラス」シリーズはゲームの新しいスタイルを提示したその商品力が高く評価され、「第25回デジタルコンテンツグランプリ優秀賞」や「日本ゲーム大賞2010 年間作品部門優秀賞」等の賞を受賞しており、今後もコンテンツとその世界観をますます拡大してまいります。

SNS向けゲームでは、GREE (グリー) にて9月より配信を開始した「ドラゴンコレクション」が、ゲームランキングで1位を獲得する等、着実にユーザー数を増やし、好調に推移いたしました。また、最強の野球部を目指す野球ソーシャルゲーム「パワフル野球部」をGREEで、天下の大將軍を目指す武将ソーシャルゲーム「戦国コレクション」をモバゲータウンでそれぞれ配信開始し、ソーシャルゲーム市場へのコンテンツ展開を強化しております。

アミューズメント機器では、麻雀格闘倶楽部シリーズの最新作「麻雀格闘倶楽部 ultimate version (アルティメットバージョン)」の稼働を開始しました。同タイトルは、ユーザーのご要望やゲーム機の稼働状況に応じて次々と新たなコンテンツを配信できる新たなビジネスモデルとして、「e-AMUSEMENT Participation (パーティシペーション)」(オペレーターとユーザーのプレー代金をシェアする方式)を導入し、ゲーム機の稼働率向上と安定的な収益への貢献、ゲーム機やシステムに必要な機材を低価格で提供する等、オペレーターの初期投資軽減に寄与しております。なお、「e-AMUSEMENT Participation」は、順次、対応機種を拡大してまいります。また、待望の3Dテレビを搭載した対戦ガンアクションゲーム「METAL GEAR ARCADE (メタルギア アーケード)」、音楽ゲームとアクションゲームの楽しさを融合させた新しいタイプの対戦型リズムアクションゲーム「REFLEC BEAT (リフレクビート)」、音楽シミュレーションゲーム「jubeat」シリーズの最新作「jubeat knit」、「BASEBALL HEROES」シリーズの最新作「BASEBALL HEROES 2010 WINNER」、全国オンライン対戦メダル競馬ゲーム「GI-Turf TV (ジーワン・ターフ・ティービー)」の稼働を開始いたしました。

カードゲームでは、「遊戯王トレーディングカードゲーム」シリーズが、引き続き堅調な売上で推移いたしました。

以上の結果、当事業における当第3四半期連結累計期間の売上高は979億4千3百万円(前年同期比2.5%減)となりました。

(ゲーミング&システム事業)

北米市場におきましては、定番となった5リールメカニカルスロットマシン「Advantage5」シリーズやビデオスロットマシン「Podium」等が引き続き好評を博しているほか、パーティシペーション(オペレーターとのプロフィットシェア方式)による収入も増加し、順調に市場シェアを獲得しております。また、豪州市場におきましては、「Podium」の販売や、「コナミ・カジノ・マネジメント・システム」の市場導入を進めております。さらに、欧州、中南米及びアジア市場についても代理店網を整備し、拡販を進めております。

なお、11月にアメリカ・ラスベガスで開催されたゲーミング業界最大級の展示会「Global Gaming Expo」において、新コンテンツを「Podium」に搭載して出展したほか、演出面で前年度より好評を博している「Advantage Revolution」や、ソフト制御されるリアルタイム高解像度の3Dグラフィックに対応した次世代プラットフォーム「KP3」を出展し、豊富なラインナップと高品質なコンテンツをはじめ、好評を博しました。

以上の結果、当事業における当第3四半期連結累計期間の売上高は144億5千4百万円(前年同期比1.9%減)となりました。

(健康サービス事業)

景気の先行き不透明感から個人消費の抑制傾向が継続し、スポーツクラブ業界では低価格化が進むとともに施設数が増加し、会員獲得における厳しい環境が続いております。

そのような状況の下、4月にオープンした新潟(新潟市)や上大岡(横浜市)に続き、10月には西大路御池(京都市)をオープンし、当社グループの強みである運動指導・栄養指導・健康管理のIT化を活かしたプログラムの開発・導入を進める等、健康意識の高まるお客様へ向けたサービスの提供に努めました。

これらの新店を含め、当社グループの指導ノウハウにティーチング理論とスイング解析の最新技術を融合させた「コナミスポーツクラブ ゴルフアカデミー」を順次全国展開し、これまでにないサービスにご好評をいただいております。また、お子様向けにもキッズゴルファーチャレンジカップを開催し、12月に千葉県にて全国大会決勝を開催する等、ジュニア育成にも取り組んでおります。

そのほか、余暇レジャーや健康医療等暮らしを豊かにする「ライフサポートサービス」、万が一の事故や怪我に備え安心して快適にご利用いただける安心補償付きプラン「安心プラス」を導入し、会員様へのサービス向上を図りました。

受託施設運営では、これまで培った運営・指導のノウハウや実績を役立て、豊岡市総合健康ゾーン健康増進施設(兵庫県)やスパーク青葉(横浜市)等の運営を開始し、各地域の公共施設運営を通じて地域社会の皆様の健康増進に取り組んでおります。

以上の結果、当事業における当第3四半期連結累計期間の売上高は651億4百万円(前年同期比0.8%増)となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

①資産、負債及び株主資本の状況

(資産)

当第3四半期連結会計期間末における資産合計は、前連結会計年度末に比較して87億1千万円増加し、3,069億8百万円となりました。これは主として、棚卸資産や売掛金が増加したこと等によるものであります。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における負債合計は、前連結会計年度末に比較して77億7千万円増加し、1,167億3千7百万円となりました。これは主として、買掛金や前受収益が増加したこと等によるものであります。

(株主資本)

当第3四半期連結会計期間末における株主資本合計は、前連結会計年度末に比較して7億6千5百万円増加し、1,852億3千万円となりました。これは主として、四半期純利益の計上や剰余金の配当を実施したことのほか、為替換算調整額を含むその他の包括利益(損失)累計額が減少したこと等によるものであります。

なお、株主資本比率は、前連結会計年度末に比較して1.5ポイント減少し、60.4%となりました。

②キャッシュ・フローの状況

	前第3四半期 連結累計期間 (自2009年4月1日 至2009年12月31日)	当第3四半期 連結累計期間 (自2010年4月1日 至2010年12月31日)	増減
区 分	金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,454	17,591	13,137
投資活動によるキャッシュ・フロー	△4,665	△9,068	△4,403
財務活動によるキャッシュ・フロー	△9,715	△5,942	3,773
為替変動の現金及び現金同等物に対する影響額	186	△1,316	△1,502
現金及び現金同等物の純増減(△)額	△9,740	1,265	11,005
現金及び現金同等物の期末残高	43,828	52,005	8,177

当第3四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末に比較して12億6千5百万円増加し、当第3四半期連結会計期間末には520億5百万円（前年同期比18.7%増）となりました。

また、当第3四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローは、次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

当第3四半期連結累計期間において営業活動により獲得した資金は、175億9千1百万円（前年同期比294.9%増）となりました。これは主として、四半期純利益や前受収益が減少した一方、売上債権や仕入債務に係る資金収支が改善したこと等によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

当第3四半期連結累計期間において投資活動により使用した資金は、90億6千8百万円（前年同期比94.4%増）となりました。これは主として、設備投資等の資本的支出が増加したこと等によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

当第3四半期連結累計期間において財務活動により使用した資金は、59億4千2百万円（前年同期比38.8%減）となりました。これは主として、配当金の支払額が減少したほか、セール・アンド・リースバック取引による収入を計上したこと等によるものであります。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

当期の見通し

(デジタルエンタテインメント事業)

ゲームソフトでは、海外のゲームソフト市場に引き続き注力してまいります。また、新プラットフォーム「ニンテンドー3DS」向けに、ウイニングイレブンの最新作「Winning Eleven 3DSoccer (ウイニングイレブン スリーディーサッカー)」を発売するほか、各種タイトルの制作を推進しております。

SNS向けのコンテンツ展開に関しては、これまでに培ったノウハウや豊富なコンテンツを活かして、引き続き配信タイトルを強化してまいります。

アミューズメント機器では、ビデオゲームでは「GuitarFreaks XG2」「DrumMania XG2」、メダルゲームでは「GRANDCROSS CHRONICLE (グランドクロス クロニクル)」、「Anima Lotta (アニマロッタ)」を発売する予定であります。さらに、コンテンツの世界観の拡大も見据えた、ビデオゲーム「ラブプラスアーケード カラフル Clip」やメダルゲーム「ラブプラスMEDAL Happy Daily Life」の発売を予定しております。また、新たな需要喚起に向けて昨年の春よりサービスを開始した電子マネー「PASELI」については、音楽ゲームを始めとして順次対応機種を拡大するほか、昨年11月より導入を開始した「e-AMUSEMENT Participation」についても順次拡大し、業界を牽引する革新的なサービスの提案を行ってまいります。

なお、ネットワーク接続比率が高まるゲーム機や、携帯電話・携帯端末に向けたダウンロード販売にも注力するほか、人気コンテンツについては、ゲームソフトやアミューズメント機器、カードゲームに留まらず、多面展開しながら、高いシナジーを追求してまいります。

(ゲーミング&システム事業)

スロットマシン販売については、メカニカルスロットマシンでは、好評を博している5リールメカニカルスロットマシン「Advantage5」シリーズの積極的な販売を引き続き推進するとともに、ビデオスロットマシンでは、前期より好評を博している「Podium」を中心に商品展開及び販売強化を行ってまいります。また、ゲーミング市場を的確に捉えた販売形式であるパーティシペーションの拡大により定期収入を増加させ、経営の安定化を図ってまいります。さらに今後は、欧州、中南米、アジア市場についてもより積極的に参入してまいります。

その他、「コナミ・カジノ・マネジメント・システム」については、北米及び豪州市場において大手オペレーターを中心に導入が進んでおります。今後、積極的に他市場へ向けて販売を行うとともに、新機能の開発等を行いながら、商品力の強化に努めてまいります。

また、米国・豪州・日本の3拠点の連携をさらに強化し、経営の効率化、生産、販売の一層の強化を引き続き推進してまいります。今後も当社グループの強みであるエンタテインメント性をベースに、社会の変化や需要に対応した新商品開発や既存商品の付加価値向上に努め、お客様により一層楽しんでいただける新商品を提案してまいります。

(健康サービス事業)

健康サービス事業では、多様化するお客様のニーズを的確に捉え、新たなライフスタイルの提案による「コナミスポーツクラブ」の付加価値向上を目指してまいります。また、300を超える国内最大規模のスポーツクラブを運営している強みを最大限に活用し、施設プログラムの充実・健康管理のIT化・商品拡充等の相乗効果を生み出して、健康サービス事業を推進してまいります。

市場環境は引き続き厳しい状況が続くと思われませんが、高齢化社会の到来と国家レベルでの生活習慣病対策等を背景に、社会全体における健康意識は高まっており、スポーツクラブ運営や健康機器開発・販売等の健康増進提案の機会は今後も広がっていくと思われま

す。当社グループでは引き続き、地域特性やお客様のニーズに合わせた施設展開や商品・サービスの拡大に努めてまいります。経済産業省の「2010年度医療・介護等関連分野における規制改革・産業創出調査研究事業」のうち、「医療・介護周辺サービス産業創出調査事業」に採択され、ITネットワーク技術を用いた医療周辺の新サービス創出にも取り組んでまいります。今後も事業環境の変化に応じて、施設内外を問わずに健康維持・増進を支援するサービスの拡充を目指してまいります。

当期の通期連結業績につきましては、売上高及び営業収入2,850億円、営業利益245億円、税引前当期純利益225億円、当社株主に帰属する当期純利益135億円と予想しており、2010年5月13日付「平成22年3月期 決算短信」において公表いたしました業績予想から変更ございません。

注意事項

本短信の業績見通しは、現時点で入手可能な情報に基づき当社の経営者が判断した見通しであり、リスクや不確実性を含んでおります。従いまして、これらの業績見通しのみで全面的に依拠して投資判断を下すことは控えるようお願いいたします。実際の業績は、様々な重要な要素により、これら業績見通しとは大きく異なる結果となり得ることを、ご承知おきください。実際の業績に影響を与え得る重要な要素には、当社の事業領域を取り巻く経済情勢、市場の動向、対ドル、対ユーロをはじめとする円の為替レート等が含まれます。

2. その他の情報

(1) 重要な子会社の異動の概要

該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要

該当事項はありません。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要

① 会計基準等の改正に伴う変更

該当事項はありません。

② ①以外の変更

該当事項はありません。

3. 連結財務諸表等

(1) 四半期連結貸借対照表

区分	前第3四半期 連結会計期間末 (2009年12月31日)		当第3四半期 連結会計期間末 (2010年12月31日)		前連結会計年度末 (2010年3月31日)	
	金額(百万円)	構成比 (%)	金額(百万円)	構成比 (%)	金額(百万円)	構成比 (%)
(資産の部)						
I 流動資産						
1. 現金及び現金同等物	43,828		52,005		50,740	
2. 受取手形及び売掛金(貸倒引当金控除後)－2009年12月31日、2010年12月31日及び2010年3月31日現在の貸倒引当金はそれぞれ720百万円、504百万円及び680百万円	33,252		31,201		30,164	
3. 棚卸資産	32,264		29,588		23,497	
4. 繰延税金資産	20,076		22,228		20,669	
5. 前払費用及びその他の流動資産	9,754		10,875		9,492	
流動資産合計	139,174	45.9	145,897	47.5	134,562	45.1
II 有形固定資産	61,804	20.4	61,374	20.0	62,434	20.9
III 投資及びその他の資産						
1. 市場性のある有価証券	220		147		226	
2. 関連会社に対する投資	2,123		2,100		2,146	
3. 識別可能な無形固定資産	35,740		35,108		35,246	
4. 営業権	21,895		21,842		21,899	
5. 差入保証金	27,812		27,451		27,685	
6. 繰延税金資産	3,263		3,541		3,531	
7. その他の資産	11,031		9,448		10,469	
投資及びその他の資産合計	102,084	33.7	99,637	32.5	101,202	34.0
資産合計	303,062	100.0	306,908	100.0	298,198	100.0

区分	前第3四半期 連結会計期間末 (2009年12月31日)		当第3四半期 連結会計期間末 (2010年12月31日)		前連結会計年度末 (2010年3月31日)	
	金額(百万円)	構成比 (%)	金額(百万円)	構成比 (%)	金額(百万円)	構成比 (%)
(負債の部)						
I 流動負債						
1. 1年内返済予定の長期借入債務及び キャピタル・リース債務	2,695		6,860		2,433	
2. 支払手形及び買掛金	14,188		19,221		16,138	
3. 未払税金	5,426		5,581		3,962	
4. 未払費用	18,217		17,264		18,568	
5. 前受収益	13,304		9,712		6,246	
6. その他の流動負債	6,298		6,139		6,118	
流動負債合計	60,128	19.9	64,777	21.1	53,465	17.9
II 固定負債						
1. 長期借入債務及びキャピタル・リース 債務(1年内返済予定分を除く)	40,046		35,968		39,885	
2. 未払退職・年金費用	2,712		2,830		2,861	
3. 繰延税金負債	5,513		4,344		4,162	
4. その他の固定負債	8,171		8,818		8,594	
固定負債合計	56,442	18.6	51,960	16.9	55,502	18.6
負債合計	116,570	38.5	116,737	38.0	108,967	36.5
(契約債務及び偶発債務)						
契約債務及び偶発債務						
(純資産の部)						
I 株主資本						
1. 資本金	47,399	15.6	47,399	15.4	47,399	15.9
普通株式—無額面： 授權株式数 450,000,000株、 発行済株式数 2009年12月31日、2010年 12月31日及び2010年3月31日現在 143,500,000株						
2. 資本剰余金	77,089	25.4	77,089	25.1	77,089	25.9
3. 利益準備金	284	0.1	284	0.1	284	0.1
4. 利益剰余金	80,361	26.5	86,930	28.3	83,055	27.9
5. その他の包括利益(損失)累計額	△292	△0.1	△3,284	△1.0	△175	△0.1
6. 自己株式—取得原価 2009年12月31日現在 10,038,992株 2010年12月31日現在 10,040,161株 2010年3月31日現在 10,039,336株	△23,187	△7.6	△23,188	△7.5	△23,187	△7.8
株主資本合計	181,654	59.9	185,230	60.4	184,465	61.9
II 非支配持分	4,838	1.6	4,941	1.6	4,766	1.6
純資産合計	186,492	61.5	190,171	62.0	189,231	63.5
負債及び純資産合計	303,062	100.0	306,908	100.0	298,198	100.0

(2) 四半期連結損益計算書

区分	前第3四半期 連結累計期間 (自 2009年4月1日 至 2009年12月31日)		当第3四半期 連結累計期間 (自 2010年4月1日 至 2010年12月31日)		前連結会計年度 (自 2009年4月1日 至 2010年3月31日)	
	金額(百万円)	百分比 (%)	金額(百万円)	百分比 (%)	金額(百万円)	百分比 (%)
I 売上高及び営業収入						
1. 製品売上高	133,294		129,680		185,514	
2. サービス収入	57,638		58,628		76,630	
売上高及び営業収入合計	190,932	100.0	188,308	100.0	262,144	100.0
II 営業費用						
1. 製品売上原価	75,058		80,019		109,910	
2. サービス原価	56,183		57,278		75,824	
3. 販売費及び一般管理費	42,565		34,470		55,407	
4. 構造改革費用	—		—		2,339	
営業費用合計	173,806	91.0	171,767	91.2	243,480	92.9
営業利益	17,126	9.0	16,541	8.8	18,664	7.1
III その他の収益(費用)						
1. 受取利息	126		192		165	
2. 支払利息	△1,183		△1,163		△1,574	
3. 為替差損益—純額	10		△335		67	
4. その他—純額	40		△11		△200	
その他の収益(費用)—純額	△1,007	△0.6	△1,317	△0.7	△1,542	△0.6
税引前四半期(当期)純利益	16,119	8.4	15,224	8.1	17,122	6.5
IV 法人税等	5,231	2.7	5,393	2.9	3,600	1.3
V 持分法投資利益(損失)—純額	49	0.0	27	0.0	56	0.0
非支配持分控除前四半期(当期)純利益	10,937	5.7	9,858	5.2	13,578	5.2
VI 非支配持分帰属利益	317	0.1	243	0.1	264	0.1
当社株主に帰属する四半期(当期)純利益	10,620	5.6	9,615	5.1	13,314	5.1

(1 株当たり情報)

区分	前第3四半期 連結累計期間 (自 2009年4月1日 至 2009年12月31日)	当第3四半期 連結累計期間 (自 2010年4月1日 至 2010年12月31日)	前連結会計年度 (自 2009年4月1日 至 2010年3月31日)
1株当たり当社株主に帰属する四半期(当期)純利益	79.58円	72.04円	99.76円
潜在株式調整後1株当たり当社株主に帰属する四半期(当期)純利益	79.58円	72.04円	99.76円
加重平均発行済株式数	133,461,248株	133,460,423株	133,461,138株
潜在株式調整後発行済株式数	133,461,248株	133,460,423株	133,461,138株

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

	前第3四半期 連結累計期間 (自 2009年4月1日 至 2009年12月31日)	当第3四半期 連結累計期間 (自 2010年4月1日 至 2010年12月31日)	前連結会計年度 (自 2009年4月1日 至 2010年3月31日)
区分	金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)
I 営業活動によるキャッシュ・フロー			
非支配持分控除前四半期(当期)純利益	10,937	9,858	13,578
営業活動によるキャッシュ・フローへの 調整項目			
減価償却費	9,536	9,165	12,899
貸倒引当金の純増減(△)	269	△196	259
構造改革費用	—	—	2,339
持分法投資損益(△)	△49	△27	△56
繰延税額	△1,436	△1,830	△3,577
資産及び負債の増減			
受取手形及び売掛金の純増(△)減	△3,595	△2,044	△261
棚卸資産の純増(△)減	△9,885	△7,700	△2,455
未収入金の純増(△)減	△198	143	△406
前払費用の純増(△)減	△158	△1,005	△24
支払手形及び買掛金の純増減(△)	△3,033	3,715	△949
未払税金及び未収税金の純増減(△)	△1,151	2,249	△2,526
未払費用の純増減(△)	976	813	△262
前受収益の純増減(△)	5,816	3,789	△1,294
前受金の純増減(△)	△379	△326	△478
預り金の純増減(△)	△513	482	△396
その他—純額	△2,683	505	△2,094
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,454	17,591	14,297

	前第3四半期 連結累計期間 (自 2009年4月1日 至 2009年12月31日)	当第3四半期 連結累計期間 (自 2010年4月1日 至 2010年12月31日)	前連結会計年度 (自 2009年4月1日 至 2010年3月31日)
区分	金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)
II 投資活動によるキャッシュ・フロー			
資本的支出	△4,771	△7,803	△6,318
有形固定資産の売却による収入	1	8	10
差入保証金の純増(△)減	△125	50	△374
その他－純額	230	△1,323	233
投資活動によるキャッシュ・フロー	△4,665	△9,068	△6,449
III 財務活動によるキャッシュ・フロー			
長期借入債務の返済による支出	△444	△204	△592
キャピタル・リース債務の元本返済による支出	△1,892	△2,042	△2,581
配当金の支払	△7,378	△5,670	△7,569
自己株式の取得による支出	△2	△2	△3
その他－純額	1	1,976	1
財務活動によるキャッシュ・フロー	△9,715	△5,942	△10,744
IV 為替変動の現金及び現金同等物に対する影響額	186	△1,316	68
V 現金及び現金同等物の純増減(△)額	△9,740	1,265	△2,828
VI 現金及び現金同等物の期首残高	53,568	50,740	53,568
VII 現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高	43,828	52,005	50,740

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

(6) セグメント情報

①事業別セグメント情報

前第3四半期連結累計期間 (自 2009年4月1日 至 2009年12月31日)

	デジタルエンタテインメント 事業 (百万円)	ゲーミング&システム 事業 (百万円)	健康サービス 事業 (百万円)	その他又は 全社・消去 (百万円)	連結 (百万円)
売上高及び営業損益					
売上高					
(1) 外部顧客に対する売上高	100,182	14,729	64,338	11,683	190,932
(2) セグメント間の内部売上高 又は振替高	245	—	246	△491	—
計	100,427	14,729	64,584	11,192	190,932
営業費用	84,025	10,900	63,514	15,367	173,806
営業損益	16,402	3,829	1,070	△4,175	17,126

当第3四半期連結累計期間 (自 2010年4月1日 至 2010年12月31日)

	デジタルエンタテインメント 事業 (百万円)	ゲーミング&システム 事業 (百万円)	健康サービス 事業 (百万円)	その他又は 全社・消去 (百万円)	連結 (百万円)
売上高及び営業損益					
売上高					
(1) 外部顧客に対する売上高	97,446	14,454	64,866	11,542	188,308
(2) セグメント間の内部売上高 又は振替高	497	—	238	△735	—
計	97,943	14,454	65,104	10,807	188,308
営業費用	84,985	10,680	63,789	12,313	171,767
営業損益	12,958	3,774	1,315	△1,506	16,541

前連結会計年度 (自 2009年4月1日 至 2010年3月31日)

	デジタルエンタテインメント 事業 (百万円)	ゲーミング&システム 事業 (百万円)	健康サービス 事業 (百万円)	その他又は 全社・消去 (百万円)	連結 (百万円)
売上高及び営業損益					
売上高					
(1) 外部顧客に対する売上高	142,239	19,996	85,480	14,429	262,144
(2) セグメント間の内部売上高 又は振替高	411	—	285	△696	—
計	142,650	19,996	85,765	13,733	262,144
営業費用	121,167	15,323	87,687	19,303	243,480
営業損益	21,483	4,673	△1,922	△5,570	18,664

1. 各事業別セグメントにおける主な事業内容は、以下のとおりであります。

- | | |
|------------------|---|
| ①デジタルエンタテインメント事業 | ゲームソフト、アミューズメント、カードゲーム、オンライン等のデジタルコンテンツ及びそれに関わる製品の制作、製造及び販売 |
| ②ゲーミング&システム事業 | カジノ施設向けゲーミング機器及びカジノマネジメントシステムの開発、製造、販売及びサービス |
| ③健康サービス事業 | スポーツクラブ施設運営、フィットネス機器及び健康関連商品の制作、製造及び販売 |

2. その他の項目は、報告セグメントの量的基準を満たさない事業から構成されております。

3. 全社の項目は、主に本社費用から構成されております。

4. 消去の項目は、主にセグメント間取引高消去及び棚卸資産の未実現利益消去等から構成されております。

②所在地別セグメント情報

前第3四半期連結累計期間（自 2009年4月1日 至 2009年12月31日）

	日本 (百万円)	米国 (百万円)	欧州 (百万円)	アジア・ オセアニア (百万円)	計 (百万円)	消去 (百万円)	連結 (百万円)
売上高及び営業損益							
売上高							
(1)外部顧客に対する売上高	144,988	25,287	15,987	4,670	190,932	—	190,932
(2)セグメント間の内部売上高 又は振替高	9,983	2,634	37	564	13,218	△13,218	—
計	154,971	27,921	16,024	5,234	204,150	△13,218	190,932
営業費用	141,592	24,430	16,348	4,714	187,084	△13,278	173,806
営業損益	13,379	3,491	△324	520	17,066	60	17,126

当第3四半期連結累計期間（自 2010年4月1日 至 2010年12月31日）

	日本 (百万円)	米国 (百万円)	欧州 (百万円)	アジア・ オセアニア (百万円)	計 (百万円)	消去 (百万円)	連結 (百万円)
売上高及び営業損益							
売上高							
(1)外部顧客に対する売上高	141,492	26,843	14,555	5,418	188,308	—	188,308
(2)セグメント間の内部売上高 又は振替高	12,937	1,350	1,581	470	16,338	△16,338	—
計	154,429	28,193	16,136	5,888	204,646	△16,338	188,308
営業費用	145,188	23,592	14,254	4,942	187,976	△16,209	171,767
営業損益	9,241	4,601	1,882	946	16,670	△129	16,541

前連結会計年度（自 2009年4月1日 至 2010年3月31日）

	日本 (百万円)	米国 (百万円)	欧州 (百万円)	アジア・ オセアニア (百万円)	計 (百万円)	消去 (百万円)	連結 (百万円)
売上高及び営業損益							
売上高							
(1)外部顧客に対する売上高	198,500	33,743	23,682	6,219	262,144	—	262,144
(2)セグメント間の内部売上高 又は振替高	14,272	3,805	89	669	18,835	△18,835	—
計	212,772	37,548	23,771	6,888	280,979	△18,835	262,144
営業費用	199,427	33,845	22,598	6,560	262,430	△18,950	243,480
営業損益	13,345	3,703	1,173	328	18,549	115	18,664

外部顧客に対する売上高については、当社及び子会社が製品の販売もしくはサービスを行っている場所に基づいてそれぞれの地域を決定しております。

(注記)

この連結財務諸表は、米国において一般に公正妥当と認められた会計原則に基づいて作成しております。